

ます！～SIAの国際理解事業～

「明日を担う世代のための国際理解セミナー」を開催しました ～41名の高校生と29か国の留学生・研修生が参加～

今、世界でリーダーシップを取り、世界を舞台に活躍できるグローバル人材が求められています。

そこで、高校生を対象に、7月26日(火)・27日(水)の2日間、「脱内向き！若者のグローバル化を目指して」をテーマに、「明日を担う世代のための国際理解セミナー」を国際交流基金日本語国際センターで開催しました。41名の高校生のほか、埼玉大学の学生や29の国と地域から来日している留学生及び外国人日本語教師（日本語国際センター研修生）が参加しました。

セミナーでは、まずオープニングトークとして、ネパール出身のジギヤン・クマル・タバ氏が「世界及びネパールとの比較から日本を語る。」と題して講演を行いました。続いて行われたパネルディスカッションでは、埼玉大学 中本進一教授の進行により、現在のグローバル社会の中で「今私たちに求められること」について考えました。

グループ討議では、高校生の議論を大学生、留学生及び研修生がサポートする形で行われ、異文化理解の促進方法や偏見の克服などについてアクションプランを作成しました。中でも、母国で日本語教師として活躍する研修生の皆さんのが、自国での事例を紹介するなど、議論の幅を広げてくれました。

引き続き行われた交流パーティーでも、クイズや民族衣装の試着などを通じて異文化に触れ、国際理解を深めました。

参加した高校生は、多くの外国人と2日間を過ごし、日本文化を発信する必要性を痛感したり、留学希望の気持ちが一層強くなったりしたようです。このセミナーを通じて広がった国際的視野をもっともっと広げ、将来は是非、国際舞台で活躍してほしいと期待しています。

参加した高校生の声 (参加者アンケートから)



自分自身も外国人に対し、怯えや偏見を持っていたことを、このセミナーに参加して初めて気づきました。



たくさんの文化が共存することは難しいが、不可能なことではないと分かりました。

外国人から見た日本のイメージがよく分かった。留学に興味を持っていましたが、行きたいという気持ちがもっと強まりました。

国際交流というと外に出たり、外から呼び込むことを考える人が多いが、まず、在日外国人にとって住みやすい日本に変えていくことが大切だと思った。

自分が世界の一員として日本をどう見て、どう行動すべきかを考えることができた。



オープニングトーク



パネルディスカッション



アクションプラン作成



交流パーティー



アクションプラン発表